

Immediate Press Release 2012.11.14

新井淳一の布 伝統と創生
ARAI Junichi Tradition and Creation

謹啓 晩秋の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティ アートギャラリーの
展覧会活動に対して、ご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2013年1月12日〔土〕より3月24日〔日〕まで、「新井淳一の布 伝統と創生」を開催
いたします。

新井淳一(1932-)は織物の町、群馬県桐生市に生まれました。高校を卒業し、家業の織物業に従事する中、伝
統的な布作りとともに、早くから新しい染織に加工を施した布の創作へと向かいました。

新井は自らをテキスタイル・プランナーと称します。糸の開発・染色・織・加工を通じて布の多彩なテクスチャー
を生み出す斬新な仕事は、国内外の素材メーカーや加工業者との試行錯誤のもと行われてきました。

プラスチックフィルムを素材とする金銀糸で織り上げた超軽量の布。それを伝統的な絞り染めの技法を使って薬品
で部分的に溶かし、透明と反射を共存させた布。また、ウールを使用した布を長時間水洗いすることで生まれる量
感あるフェルト。既成の枠にとらわれない新井の自由な発想と独自の方法論は、常に見る者を驚かせます。

新井はファッションとの関わりでもその名を広く世界に知られるところとなりました。1970年代から80年代にかけ
て、三宅一生や川久保玲ら、日本を代表するファッションデザイナーをはじめ、海外のファッションデザイナーとの
妥協のないものづくりの協働は、新井の制作の領域を拡大させていきました。

新井の仕事の根底には、長い歴史の中で受け継がれてきた民族の手仕事への敬意があります。ここで新井の代表
作の一つ、[スリットヤーン]を使った布作りについてご紹介しましょう。[スリットヤーン]とは、プラスチックフィル
ムをベースにアルミニウムなどの金属を真空蒸着し、細く切断して作る糸で、新井はこの製法における技術開発に
関わってきました。新井の表現技法の一つであり、産業にも用いられる現代の布。新井によれば、[スリットヤーン]
の源流は古代まで遡ることができるといいます。獣の皮や樹皮、竹などを裂いて織り上げられた布には [スリットヤ
ーン] の原初の姿があり、新井はそこにテキスタイルの起源を見出しているのです。

さらに新井は伝統的な絞り染めの技法を用いてこの布を化学薬品で部分的に溶かし(メルト・オフ)、蜻蛉の羽の
ように透明で繊細な美しさをもつ布も多く制作しています。過去と未来、産業とアート、手わざとテクノロジー。異
なる要素が新井の手の中で一つに融合します。

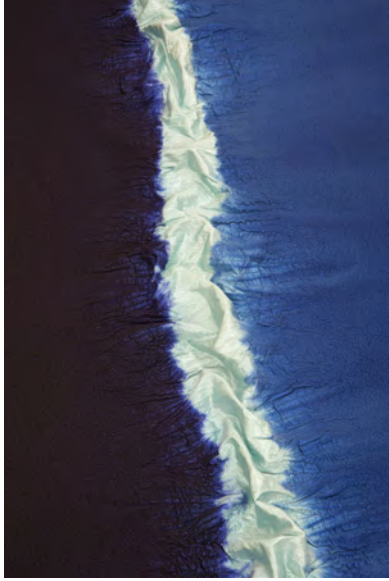
本展は新井淳一の60年に及ぶ仕事の全貌を紹介する大規模な個展です。新作を含む多様な技法による布約60
点を展示し、伝統的な手仕事を起点に新しいテクスチャーの創造に取り組んできた新井の発想を浮かび上がらせ
ます。展示構成はパリを拠点に活動する建築家ユニットDGT(ドレル・ゴットメ・田根/アーキテツ)の田根剛
が担当。ギャラリー1では多様な技法による布をご覧いただきながら、現代のテクスチャーを探求し続けてきた新
井の先鋭的な発想を紹介します。ギャラリー2では最新作を含めた布を展示、新井の布を体感していただきます。
また、コリドールでは、新井の創造にインスピレーションを与えてきた様々な民族の手仕事や、新井自身が世界各
地で撮影した写真、新井自身の言葉などを、映像と音による空間演出で紹介いたします。つきましては、「新井淳一展
伝統と創生」を貴誌上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 佐山 【広報担当】 吉田
Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com

ARTGALLERY
TOKYO OPERA CITY



上段左：《青》，ウール，ナイロン，アルミニウム（スリットヤーン）1995年

上段中央：《コーリアン・キャロット》，ウール 1981年

上段右：《布目柄》，ウール，アクリル 1982年

下段：《万華鏡》（部分），ポリエステル，アルミニウム（スリットヤーン）1992年

[開催概要]

展覧会名： 新井淳一の布 伝統と創生

ARAI Junichi Tradition and Creation

会期： 2013年1月12日 [土] → 3月24日 [日]

会場： 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間： 11:00-19:00 (金・土は 20:00 まで / 最終入場は閉館の 30 分前まで)

休館日： 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)、2月10日 [日・全館休館日]

入場料： 一般 1,000(800)円 / 大・高生 800(600)円 / 中・小生 600(400)円

同時開催「収蔵品展 043 自然の表現—わが山河 Part IV」、「project N 51 阿部未奈子」*の入場料を含みます。

*収蔵品展入場券 200円 (各種割引無し) もあり。

* () 内は 15 名以上の団体料金。その他、閉館の 1 時間前より半額、65 歳以上半額。土・日・祝日の中・小生無料。

*障害者手帳をお持ちの方および付添 1 名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ： 03-5353-0756 ウェブサイト URL : <http://www.operacity.jp/ag/>

主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団 / 東京新聞

協賛： ジャパンリアルエステイト投資法人 / NTT 都市開発株式会社

助成： 芸術文化振興基金

協力： 尾池テック株式会社 / 美術照明サムサラ / 公益財団法人 三宅一生文化財団

企画協力： マンゴスティン

展示構成： Dorell.Ghotmeh.Tane / Architects